



地域の特徴

- 日本のほぼ中央に位置し、人の移動、物流、産業立地など地理的に恵まれた条件を数多く備える。
- 新幹線をはじめとする鉄道網や高速道路、世界とつながる空港や港を擁しており、**広域的な交流ネットワークの中心**。
- 人口は約232万人(2018年10月1日)。自然減を上回る他地域からの社会増により、**常住人口は増加傾向**。
- 自動車、航空機、ロボット、精密機器、工作機械、ファインセラミックスなど、世界レベルの**産業技術が集積**。大都市ならではの**商業・サービス業の厚い集積**があり、強い経済力に裏づけられた**安定的な雇用**がある。
- 日本有数の**大学の集積地**であり、市内の大学からノーベル賞受賞者を多く輩出するなど、高等教育機関が充実。
- ごみ処理量が増加し年間100万トンに迫っていた中、渡り鳥飛来地の藤前干潟での埋立処分場建設を断念。1999年に「ごみ非常事態宣言」を発表して以降、市民・事業者の協力により、**ごみ処理量約4割減を達成**。

重要な地域課題と解決に向けた取組

【経済面の課題】

リニア時代を迎える名古屋経済の持続的な発展

<解決事業>



- イノベーション拠点の設置・運営
- なごやみらい企業・女性スタートアップ創出プロジェクト（地方創生推進交付金活用）
- 働きやすい企業の創出によるナゴヤの活性化プロジェクト（地方創生推進交付金活用）

【社会面の課題】

国際的な都市間競争を勝ち抜く交流拠点都市の形成

<解決事業>



- 先進モビリティの社会実装
- 新たな路面公共交通システム（SRT）の導入
- リニア中央新幹線開業に向けた都心部のまちづくり

【環境面の課題】

低炭素都市・自然共生都市の実現

<解決事業>



- 水素エネルギーの利活用の推進
- 低炭素なライフスタイル・ビジネススタイルの推進
- 生物多様性の主流化



三側面をつなぐ統合的取組：名古屋が誇る“協働力”を礎につなぐ未来創造プロジェクト～なごや環境大学SDGs未来創造クラブの推進～

※次頁参照

名古屋が誇る“協働力”を礎につなぐ未来創造プロジェクト ～なごや環境大学SDGs未来創造クラブの推進～

【プロジェクトイメージ図】



①低炭素・先進モビリティ都市への挑戦プロジェクト

- SDGsや環境に配慮した先進技術についての勉強会や、事業展開を検討するワークショップを開催
 - 低炭素モデル地区などをモデルエリアに設定し、地域の課題解決を目指して技術力を活かした社会実験等を実施
- ⇒「低炭素・先進モビリティ都市」が実現していく姿のショーケース化

②次世代を担う子どもたちによる継承プロジェクト

- 持続可能な世界を築くために何をしたら良いのか、何に取り組むことで目標達成に貢献していくのかについて、子どもたちに自ら考えてもらうため、企業等の参加により「SDGs学習プログラム」を制作
 - 学校の授業や企業の出前授業等で展開することで、子どもへのSDGsの浸透、家族や地域への波及を促し、分野・主体・世代を越えた学び合いの推進
- ⇒SDGs達成を支える人材の育成

※①②は地方創生推進交付金活用予定

2030年のあるべき姿

人権が尊重され、誰もがいきいきと暮らし、活躍できるまち
安心して子育てができ、子どもや若者が豊かに育つまち
人が支え合い、災害に強く安心・安全に暮らせるまち
快適な都市環境と自然が調和したまち
魅力と活力にあふれ、世界から人や企業をひきつける、開かれたまち

自治体SDGsの推進に資する取組

(経済)「イノベーション戦略」の推進

- 中小企業のイノベーション創出の促進
- 産業立地促進助成
- ロボット・IoT導入専門人材育成事業
- ICT企業交流・投資促進事業
- MICEの推進による多様な交流の促進
- ワーク・ライフ・バランスの推進

(社会)「都市機能強化戦略」の推進

- 最先端モビリティ都市の実現に向けた取組
- リニア中央新幹線開業に向けた名古屋駅周辺のまちづくり
- 栄地区まちづくりプロジェクトの推進
- 第20回アジア競技大会の推進
- 中部国際空港の利用促進及び機能強化の推進

(環境)「環境都市推進戦略」の推進

- 環境にやさしいエネルギー利用の推進
- 低炭素なライフスタイル・ビジネススタイルの推進
- 緑に親しめる環境づくり
- 生物多様性の保全と持続可能な利用の推進
- 健全な水循環の確保
- 3Rの推進